



2020年3月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

2020年2月14日

上場会社名 株式会社ソフィアホールディングス 上場取引所 東
 コード番号 6942 URL <https://www.sophia.com/>
 代表者 (役職名)代表取締役社長 (氏名)林 哲也
 問合せ先責任者 (役職名)取締役 財務・IR担当 (氏名)巢山 貴裕 (TEL)03(6758)0455
 四半期報告書提出予定日 2020年2月14日 配当支払開始予定日 —
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 2020年3月期第3四半期の連結業績(2019年4月1日～2019年12月31日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2020年3月期第3四半期	7,051	127.6	△6	—	△35	—	△69	—
2019年3月期第3四半期	3,097	5.7	△245	—	△315	—	△350	—

(注) 包括利益 2020年3月期第3四半期△68百万円 (—%) 2019年3月期第3四半期△351百万円 (—%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2020年3月期第3四半期	△25.78	—
2019年3月期第3四半期	△150.56	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2020年3月期第3四半期	8,371	655	7.8
2019年3月期	6,810	723	10.6

(参考) 自己資本 2020年3月期第3四半期 655百万円 2019年3月期 723百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2019年3月期	—	0.00	—	0.00	0.00
2020年3月期	—	0.00	—	—	—
2020年3月期(予想)	—	—	—	0.00	0.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2020年3月期の連結業績予想(2019年4月1日～2020年3月31日)

当社グループを取り巻く環境は短期的に大きく変動する傾向にあり、業績の見通しにつきましては適正かつ合理的な数値の算出が困難であるため、四半期ごとに決算実績及び事業の概況をタイムリーに開示することにつとめ、業績予想の開示を控えさせていただきます。

なお、今後業績予想が可能になりました段階で改めて公表いたします。

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 : 無

(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動)

新規 — 社(社名) 、除外 — 社(社名)

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無

② ①以外の会計方針の変更 : 無

③ 会計上の見積りの変更 : 無

④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	2020年3月期3Q	2,737,720株	2019年3月期	2,737,720株
② 期末自己株式数	2020年3月期3Q	48,853株	2019年3月期	48,763株
③ 期中平均株式数(四半期累計)	2020年3月期3Q	2,688,884株	2019年3月期3Q	2,325,341株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
四半期連結損益計算書	
第3四半期連結累計期間	6
四半期連結包括利益計算書	
第3四半期連結累計期間	7
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8
(セグメント情報等)	8
(重要な後発事象)	10

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間におけるわが国経済は、雇用・所得環境の改善が続くなかで政府の各種政策の効果もあり、穏やかな回復が続くことが期待されます。ただし、海外経済の不確実性、金融資本市場の懸念に加え、相次いでいる自然災害により、先行きはやや不透明な状況にあります。

当社グループの既存事業であるインターネット関連事業及び通信事業におきましては、ICT（情報通信技術）を活用したサービスへの需要の高まりや、2020年に向けた社会インフラの再構築が加速する一方で、社会的には少子高齢化、働き手不足、そして政府より働き方が改革の課題として提案されるなど、当社グループを取り巻く事業環境は大きく変化しております。また、前連結会計年度より新たに参入した調剤薬局及びその周辺事業におきましては、同業他社だけでなく異業種を含む競争の激化、また、人手不足を背景とした人件費の増加、2018年4月からの調剤報酬改定もあり、当社グループを取り巻く環境は、依然厳しい状況が続いております。

このような環境の下、当社グループにおきましては、前期に引き続き財務基盤を確立するため、各種施策を行いました。

インターネット関連事業及び通信事業におきましては、継続した利益率改善を行うため、事業構造の見直しや収益性改善の取り組み、営業体制の整備及び新規顧客獲得の注力を行い、取引先の拡大に努めてまいりました。また、今後需要の拡大が予測されるAIやIoT分野への事業展開を見据え、システム開発案件の受託事業におけるエンジニアの採用・育成を行い、新サービスの開発・提供を通じて、更なる収益力の強化を推進してまいりました。

調剤薬局事業におきましては、M&A等による事業の拡大に努め、また、調剤薬局事業の管理機能を強化し、更なる経営の効率化及び顧客サービスの強化を図ることを目的として、2019年4月1日にルナ調剤株式会社を存続会社、有限会社ビーライク、有限会社コアラ、有限会社ユウアイファーマシー及び株式会社中嶋ファーマシーの4社を消滅会社とする当社連結子会社間の吸収合併を行いました。

これらの結果、当第3四半期連結累計期間の経営成績としましては、売上高が7,051百万円(前年同四半期比127.6%増)となりました。利益面におきましては、営業損失6百万円(前年同四半期は営業損失245百万円)、経常損失35百万円(前年同四半期は経常損失315百万円)、親会社株主に帰属する四半期純損失69百万円(前年同四半期は親会社株主に帰属する四半期純損失350百万円)となりました。

なお、第1四半期連結会計期間において、報告セグメントの区分を変更しております。詳細は、「2. 四半期連結財務諸表及び主な注記 (3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項 (セグメント情報等) セグメント情報」の「3. 報告セグメントの変更等に関する事項」に記載の通りであります。

セグメントの経営成績は、次のとおりであります。

[インターネット関連事業]

インターネット関連のシステム開発、データセンターの運用・保守及び不動産仲介業者向けASPサービスの提供等を行い、システム開発案件の受託事業及び不動産仲介事業者向けASPサービス等が好調に推移したものの、売上高は697百万円(前年同四半期比11.6%減)となりました。

[通信事業]

MVNO(※1)、FVNO(※2)やISP(※3)を中心とした情報通信サービスが順調であったことなどにより、売上高は2,153百万円(前年同四半期比22.6%増)となりました。

[調剤薬局及びその周辺事業]

前期に引続き、M&A等による店舗数の拡大に努めつつ調剤薬局の運営を行った結果、売上高は4,182百万円(前年同四半期比747.7%増)となりました。

なお、当第3四半期連結会計期間の末日現在において当社グループにおける薬局総数は、54店舗となりました。今後もM&Aを積極的に活用し、当該事業を拡大して参ります。

[その他]

WEBサイトの企画・運営及び管理等を行った結果、売上高は41百万円(前年同四半期比50.3%減)となりました。

- (※1) Mobile Virtual Network Operatorの略。自社で無線通信回線設備を持たず、他の移動体通信事業者から借りてあるいは再販を受けて移動体通信サービスを提供する事業者。
- (※2) Fixed Virtual Network Operatorの略。自社で固定回線のネットワークを持たず、他の事業者から借りてあるいは再販を受けて固定通信サービスを提供する事業者。
- (※3) Internet Services Providerの略。公衆通信回線等を経由して契約者にインターネットへの接続を提供する事業者。

(2) 財政状態に関する説明

当第3四半期連結会計期間末における総資産は前連結会計年度末に比べ1,561百万円増加し、8,371百万円となりました。これは主として、のれんの増加によるものであります。

負債につきましては前連結会計年度末に比べ1,630百万円増加し、7,716百万円となりました。これは主として、長期借入金の増加によるものであります。

純資産につきましては、前連結会計年度末に比べ68百万円減少し、655百万円となりました。これは主として、利益剰余金の減少によるものであります。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

当社グループを取り巻く事業環境は短期的に大きく変動する傾向にあり、業績の見通しにつきましては適正かつ合理的な数値の算出が困難であるため、四半期ごとに決算実績及び事業の概況をタイムリーに開示することにつとめ、業績予想の開示を控えさせていただいております。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2019年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2019年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	2,789,555	1,382,521
受取手形及び売掛金	1,078,527	1,529,088
商品及び製品	262,578	601,437
その他	146,241	70,567
貸倒引当金	△4,398	△1,423
流動資産合計	4,272,504	3,582,192
固定資産		
有形固定資産	165,611	439,508
無形固定資産		
のれん	2,130,213	4,059,123
その他	8,544	15,761
無形固定資産合計	2,138,757	4,074,884
投資その他の資産		
敷金及び保証金	96,896	127,027
その他	191,859	198,893
貸倒引当金	△54,864	△50,560
投資その他の資産合計	233,890	275,360
固定資産合計	2,538,260	4,789,753
資産合計	6,810,764	8,371,945

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2019年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2019年12月31日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	1,237,645	2,031,882
短期借入金	680,640	585,000
1年内返済予定の長期借入金	719,396	976,689
1年内償還予定の社債	57,200	57,200
未払金	140,806	189,358
未払法人税等	96,129	30,705
預り金	446,996	30,107
賞与引当金	4,058	2,505
その他	127,919	121,549
流動負債合計	3,510,793	4,024,999
固定負債		
社債	263,800	206,600
長期借入金	2,243,596	3,417,329
退職給付に係る負債	379	4,880
その他	68,199	63,052
固定負債合計	2,575,975	3,691,862
負債合計	6,086,768	7,716,862
純資産の部		
株主資本		
資本金	2,358,000	2,358,000
資本剰余金	652,887	652,887
利益剰余金	△2,218,613	△2,287,936
自己株式	△61,965	△62,055
株主資本合計	730,307	660,896
その他の包括利益累計額		
為替換算調整勘定	△6,312	△5,812
その他の包括利益累計額合計	△6,312	△5,812
純資産合計	723,995	655,083
負債純資産合計	6,810,764	8,371,945

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

第3四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自2018年4月1日 至2018年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自2019年4月1日 至2019年12月31日)
売上高	3,097,449	7,051,019
売上原価	2,215,979	4,713,438
売上総利益	881,470	2,337,580
販売費及び一般管理費	1,127,326	2,344,539
営業損失(△)	△245,855	△6,959
営業外収益		
受取利息	488	387
受取配当金	—	6
為替差益	1,003	—
貸倒引当金戻入額	2,205	7,788
その他	1,264	8,828
営業外収益合計	4,961	17,011
営業外費用		
支払利息	17,424	39,388
借入手数料	48,609	1,256
為替差損	—	813
その他	8,264	3,975
営業外費用合計	74,298	45,434
経常損失(△)	△315,192	△35,382
特別利益		
関係会社株式売却益	876	45,000
保険解約返戻金	5,749	—
その他	—	2,314
特別利益合計	6,625	47,314
特別損失		
固定資産除却損	—	8,285
減損損失	3,691	—
資産除去債務計上損	1,144	—
特別損失合計	4,835	8,285
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失(△)	△313,401	3,646
法人税、住民税及び事業税	36,936	66,200
法人税等調整額	△246	6,767
法人税等合計	36,690	72,968
四半期純損失(△)	△350,091	△69,322
親会社株主に帰属する四半期純損失(△)	△350,091	△69,322

四半期連結包括利益計算書
第3四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2018年4月1日 至 2018年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年12月31日)
四半期純損失(△)	△350,091	△69,322
その他の包括利益		
為替換算調整勘定	△925	499
その他の包括利益合計	△925	499
四半期包括利益	△351,017	△68,822
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	△351,017	△68,822

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第3四半期連結累計期間(自2018年4月1日 至2018年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント				その他 (注)	合計
	インター ネット関連 事業	通信事業	調剤薬局 及びその 周辺事業	計		
売上高						
外部顧客への売上高	766,457	1,754,971	493,409	3,014,838	82,611	3,097,449
セグメント間の内部 売上高又は振替高	22,470	1,983	—	24,453	1,313	25,767
計	788,927	1,756,954	493,409	3,039,291	83,924	3,123,216
セグメント利益 又は損失(△)	25,234	224,006	△282,991	△33,750	△23,724	△57,475

(注) 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、ECサイト関連事業、海外事業及び健康医療介護情報サービス事業を含んでおります。

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容(差異調整に関する事項)

(単位:千円)

利益	金額
報告セグメント計	△33,750
「その他」の区分の利益	△23,724
セグメント間取引消去	125
全社損益(注)	△188,505
四半期連結損益計算書の営業損失(△)	△245,855

(注) 全社損益は、主に提出会社に係る損益であります。

3. 報告セグメントの変更等に関する事項

第1四半期連結会計期間より、当社グループ(当社及び連結子会社)は、2018年4月1日付にて調剤薬局及びその周辺事業を推進する会社を設置すると共に、健康医療介護情報サービス事業の機能集約をはかり、資源を効率的に活用可能な体制整備とする、グループ内組織再編を実施いたしました。

これに伴い、第1四半期連結会計期間から、「調剤薬局及びその周辺事業」を報告セグメントとして新たに追加しております。

「遺伝子情報サービス事業」については、本事業の主体であった株式会社ジーンクエストを2017年10月1日付で株式交換を行い連結の範囲から除外したことに伴い、第1四半期連結会計期間よりセグメント区分から削除しております。

4. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

重要性が乏しいため、記載を省略しております。

(のれんの金額の重要な変動)

「調剤薬局及びその周辺事業」セグメントにおいて、のれんの金額に重要な変動が生じております。

第1四半期連結会計期間において、有限会社ビーライクの連結子会社化、ルナ調剤株式会社における有限会社ティエヌ商会からの事業譲受、第2四半期連結会計期間において、有限会社コアラの連結子会社化、ルナ調剤株式会社での有限会社メディカルボックス及び有限会社ケイアンドワイからの事業譲受、また当第3四半期連結会計期間において、有限会社ユウアイファーマシーの連結子会社化により、のれんが発生しております。

なお、当該事象によるのれんの増加額は、当第3四半期連結累計期間においては825,498千円であります。

「インターネット関連事業」セグメントにおいて、のれんの金額に重要な変動が生じております。

当第3四半期連結会計期間において、株式会社サイバービジョンホスティングでの株式会社アールエムエスからの事業譲受により、のれんが発生しております。

なお、当該事象によるのれんの増加額は、当第3四半期連結累計期間においては35,185千円であります。

(重要な負ののれん発生益)

該当事項はありません。

II 当第3四半期連結累計期間(自2019年4月1日 至2019年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント				その他 (注)	合計
	インター ネット関連 事業	通信事業	調剤薬局 及びその 周辺事業	計		
売上高						
外部顧客への売上高	675,407	2,152,281	4,182,700	7,010,390	40,628	7,051,019
セグメント間の内部 売上高又は振替高	21,739	1,407	—	23,146	1,067	24,214
計	697,147	2,153,689	4,182,700	7,033,537	41,696	7,075,233
セグメント利益 又は損失(△)	73,641	260,851	△219,170	115,322	2,513	117,836

(注) 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、ECサイト関連事業、海外事業及び健康医療介護情報サービス事業を含んでおります。

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容(差異調整に関する事項)

(単位：千円)

利益	金額
報告セグメント計	115,322
「その他」の区分の利益	2,513
セグメント間取引消去	104
全社損益(注)	△124,900
四半期連結損益計算書の営業損失(△)	△6,959

(注) 全社損益は、主に提出会社に係る損益であります。

3. 報告セグメントの変更等に関する事項

第1四半期連結会計期間から、従来「健康医療介護情報サービス事業」について、量的な重要性が低下したため「その他」として記載する方法に変更しております。

なお、前第3四半期連結累計期間のセグメント情報は、変更後の区分に基づき作成したものを記載しております。

4. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

重要性が乏しいため、記載を省略しております。

(のれんの金額の重要な変動)

「調剤薬局及びその周辺事業」セグメントにおいて、のれん金額に重要な変動が生じております。

有限会社長東薬局、株式会社長東、有限会社三榮、株式会社アルファメディックス、盛徳商事有限会社、有限会社メリーコーポレーションの連結子会社化及びソフィア総合研究所株式会社、株式会社アルファメディックスの事業譲受が主な要因となっております。

なお、当該事象によるのれんの増加額は、当第3四半期連結累計期間においては2,054,593千円であります。

(重要な負ののれん発生益)

該当事項はありません。

(重要な後発事象)

(株式取得による子会社化)

当社の連結子会社であるルナ調剤株式会社は、2019年12月19日開催の取締役会において、有限会社わかば薬局の全株式を取得し、子会社化することについて決議し、同日付で株式譲渡契約を締結し、2020年2月1日付で全株式を取得しました。

1. 企業結合の概要

(1) 被取得企業の名称及びその事業の内容

被取得企業の名称 有限会社わかば薬局

事業の内容 調剤薬局事業

(2) 企業結合を行った主な理由

調剤薬局事業の拡大を推進することを目的として本株式の取得を決定したものであります。

(3) 企業結合日

2020年2月1日

(4) 企業結合の法的形式

株式取得

(5) 結合後企業の名称

変更はありません。

(6) 取得する議決権比率

100.00%

(7) 取得企業を決定するに至った主な根拠

当社の連結子会社であるルナ調剤株式会社による現金を対価とする株式取得であるためです。

2. 被取得企業の取得原価及び対価の種類ごとの内訳

取得の対価	現金	64,228千円
取得原価		64,228

3. 主要な取得関連費用の内容及び金額

現時点では確定していません。

4. 発生したのれん金額、発生原因、償却方法及び償却期間

現時点では確定していません。

5. 企業結合日に受け入れた資産及び引き受けた負債の額並びにその主な内訳

現時点では確定していません。

(連結子会社による孫会社の吸収合併)

当社は、2020年1月23日開催の取締役会において、連結子会社であるソフィアデジタル株式会社を存続会社、株式会社オルタエンターテインメントを消滅会社とする吸収合併をすることを決議しました。

1. 合併の目的

当社グループは現在、事業ポートフォリオの再構築と経営資源の集中化を行っており、その一環として更なる経営資源の効率化、サービス運営力の向上、収益の向上を図ることを目的として、本合併を行うことといたしました。

2. 取引の概要

(1) 合併当事会社の名称及びその事業の内容

(存続会社)

企業の名称 ソフィアデジタル株式会社
事業の内容 通信事業

(消滅会社)

企業の名称 株式会社オルタエンターテインメント
事業の内容 ペット総合情報サイトの企画・運営・管理

(2) 企業結合日

2020年4月1日

(3) 企業結合の法的形式

ソフィアデジタル株式会社を存続会社とし、株式会社オルタエンターテインメントを消滅会社とする吸収合併方式といたします。

(4) 結合後企業の名称

ソフィアデジタル株式会社

3. 実施する会計処理の概要

「企業結合に関する会計基準」及び「企業結合会計基準及び事業分離等会計基準に関する適用指針」に基づき、共通支配下の取引として処理する予定です。